

明治39年(1906) 1月、富山県新湊町に生まれ、高岡中学、第四高等学校を経て昭和5年東京帝国大学法学校政治学科を卒業した。大学卒業の前年高等文官試験に合格していたので、卒業後直ちに内務省の採用となり、福島県、岩手県、愛知県、兵庫県の警察畠或は経済部を渡り歩き、昭和17年鹿児島県官房長、18年福島県経済部長となった。19年には漸く地方行政廻りを終えて厚生省健民局体力課長となって本省に戻ったが、彼が都市計画に関係したのは、終戦直後の昭和20年11月内務省国土局計画課長になった時からであった。内務省解体後の22年には戦災復興院及び建設院の特別建設局長となり、昭和24年から27年退官するまで建設省の都市局長を勤めた。都市局長在任中は戦災復興事業の推進、特に少なかった予算の増大に苦心した。また当農地法によって都市計画の事業が著しく阻害された時、率先してGHQに乗り込み陳情し、5ヶ年農地買収の保留を実現せしめた功は大きい。退官後は住宅金融公庫副総裁、あるいは(社)全国公営住宅共済会理事長として活躍した。



わが国で初めて都市計画及び住宅の国際会議が開催されたのは昭和41年(1966)であった。この会議を日本に招致したのは飯沼一省であるが、この大会議の準備を一切指揮したのは八嶋で、この国際会議の準備委員会の常任委員長として、準備並びに開催実施に奮闘したのである。この会議は皇太子殿下並びに同妃殿下の御来臨を仰ぎ、外国人500名、日本人1,000名の参加を得て、大成功裡に終了した。この初めての国際会議は、多くの関係者の努力によって、会議、展示会、視察、接遇等諸種の準備が行なわれたのであるが、八嶋委員長の最も苦心したのはその経費の調達であり、彼は連日奔走し、国・地方公共団体、特に民間から、経費の6分の5を占める6,000万円を集めめたのである。彼は昭和43年6月比較的若くして逝去したが、その遠因はこの国際会議開催の身心疲労によるといわれる程の献身的努力であった。彼は、公営住宅共済会理事長の他、全国区画整理協会連合会会長、歴史的風土審議会委員及び財都市計画協会理事等都市計画に關係ある仕事を死亡時まで勤め、その指導は熱意あるものであった。書道、麻雀以外趣味はなく、一途に都市計画推進を念願した熱血漢であった。